

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市廃棄物減量等推進審議会			
事務局 (担当課)	廃棄物政策課 電話042-769-8336 (直通)			
開催日時	令和6年8月8日(木) 14時00分～16時00分			
開催場所	総合学習センター4階 大会議室			
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	13人(ゼロカーボン・資源循環推進担当部長、廃棄物政策課長、他11人)		
公開の可否	■可	□不可	□一部不可	傍聴者数 1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 報告 (1) 製品プラスチック一括回収モデル事業の結果(速報)等について</p> <p>3 議題 (1) 有料化・戸別収集の検討について ア 検討の進め方について イ 相模原市のごみ処理と資源回収の現状と課題について ウ ブレインストーミング テーマ 有料化について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>			

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

定足数確認の上、開会した。

2 報告

- (1) 製品プラスチック一括回収モデル事業の結果(速報)等について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(松平委員) 容器包装プラスチックと製品プラスチックは同一ベールでリサイクルにまわせるのか、それとも別々のベールとなるのか。

(事務局) 同一ベールで問題ないと考えている。

(大河内委員) 50センチメートル未満の場合、1世帯当たり1か月で0.18キログラムの回収ということだが、1日当たりにすると6グラム、1世帯3人とすると1人1日2グラムしか回収できていない。これは今までの排出状況から見て、大体回収できているのか、それともまだ通常のごみに混ざっている状況なのか。

(事務局) 検証したが、1世帯当たりの製品プラスチック量0.18キログラムは、他市の状況を見てもそれほど低い数字ではない。割合としては、6.89%と3.95%で他市が発表している割合より低いですが、これは本市が回収している容器包装プラスチックの量が他市より比較的多いためであり、実回収量としては平均的な数字と捉えている。

- (2) 有料化・戸別収集の検討について

ア 検討の進め方について

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

なし

イ 相模原市のごみ処理と資源回収の現状と課題について

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(藤倉委員) 政令市の生活系ごみの比較のグラフがあるが、有料化を実施している9政令市はどこか。

(事務局) 札幌市、仙台市、千葉市、新潟市、京都市、岡山市、北九州市、福岡市、熊本市である。

(松平委員) 次に移る前に、イメージをして色々な議論をしてもらった方が良くと考え、以前に勤務していた多摩市の有料指定袋を持参した。

1つ目はプラスチックの有料指定袋で20リットル一枚10円である。多摩市は数年前から製品プラも容器包装プラも一緒に集めて資源化しているが、市民の方には容器包装と製品プラの違いが分かりづらいので、綺麗なプラスチックとしてまとめている。プラスチックの中間処理場は、おいがひどいということはなく非常に綺麗である。

なぜ資源であるプラスチックが有料かということ、発生抑制が進まないからである。有料化することでトレーなども店頭に戻していただくことに繋がる。

次は、相模原市で言えば一般ごみだが、燃やせるごみの指定袋で20リットル一枚30円。この袋には燃やせるごみと汚れたプラスチックと書いてあり、汚れたプラスチックは燃やせるごみに出してくださいということである。

最後に、燃やせないごみ。相模原市では一般ごみ。多摩市では月2回しか収集されないが、袋に書いてあるとおりに、ガラス・陶器類が入る。これも20リットル一枚30円。

いずれも共通しているのは、これがすごく大事なのだが、集合住宅では必ず部屋番号を袋に記入することになっている。部屋番号がないものは収集しないので、集合住宅でも発生抑制ができる。

この袋は事務局にお渡しするので見ていただいてからご議論していただきたいと思う。

(事務局) 有料化の議論であり、どのくらいお金がかかるかということも大事と考える。今の多摩市では、おそらく1リットル当たり1.5円程度ではないか。

4人家族くらいの一般家庭で使われる大きなごみ袋で大体40リットルぐらい。それをリッター1.5円とすると一枚60円、2円だと一枚80円ぐらいとイメージしていただければと思う。少し高めだが、1リットル当たり2円、今の多摩市の事例よりも少し高い価格設定で試算すると、市民1人当たり概ね年2,000円ぐらい、月に直すと150円から200円程度が、

1 人当たりの費用になる。これが有料化にかかる市民の負担ということでイメージいただければというところである。

(浅賀委員) これからの方向性を含めて、審議会が有料化ありきみたいなことで進むわけではないのですね。それは非常に異論があるし、この問題を周辺の皆さんに投げかけているが、みんな「え、何それ」ということで、この雰囲気と私の周辺の方とは乖離している状況がある。審議会の役割はあると思うが、有料化する方向にこの審議会が誘導されるのは、困る。その点だけは押さえておいてほしい。

(事務局) 本市として、有料化をする、しないということを既に決めているということではない。審議会の皆様からは専門的な知見も踏まえて、それぞれの立場からお考えをいただくということであり、一般市民の方、有料化、戸別収集についてよくご理解をいただけていない方に対する説明も必要と思っている。有料化が良い、もしくは引き続き無料のままが良い、そういったところも含めて、まずは皆様からご意見を頂きたく、議論を進めさせていただいている。こちらから何か一方的な意図をもって進めることはないということは、ご理解いただければと思う。

ウ ブレインストーミング

テーマ 有料化について

委員が3つのグループに分かれ、「相模原市が、有料化をした方がよい理由（有料化したときのメリット、無料のままだったときのデメリット）」、「相模原市が、有料化しない方がよい理由（無料のままの方がよい理由、有料化したときのデメリット）」をテーマにグループ毎にブレインストーミングを実施するとともに、各グループの意見を発表いただき、参加者全員で共有した。

※以下、各グループからの発表要旨

○「相模原市が、有料化をした方がよい理由

(有料化したときのメリット、無料のままだったときのデメリット)」

(Aグループ) Aグループでは、カテゴリーが5つぐらいに分かれた。

- ・1つ目は、ごみ減量の意識が高まる。

やはりいろいろと感じとることでごみを分けようとか減らそうという気持ちが進んだり、買い物ではごみが出ないような買い方をしたり、そのような努力を各自がするようになるのではないかというのが1つである。

- ・次に、分別の意識が高まり、これまでは面倒だから、例えば紙パックを洗わずに燃やせるごみに入れていたのを、洗ってから資源化している店頭回収に持ち込んだり、生ごみ処理機を使ったり、分別をしっかりと進め資源化の意識が高まるのではないかとというのが2つ目である。
- ・それから3つ目が結構大きいことで、ごみを通して環境への意識が高まるのではないかと。気候変動や地球温暖化など、ごみ問題を意識したり、持続可能な地球にすることや子どもへの教育といった課題にいろいろ意識を持てるのではないかと。
- ・次に、分別が進み、ごみ置き場が綺麗になるのではないかと。
- ・最後に、ごみ処理の経費などに対して市民が理解をするようになること。ごみは単に出せば収集されておしまいではなく、どのような経費がかかっているかなどしっかりと考えるようになる。

(Bグループ)

- ・最初に出たのは、市民のごみに対する意識が高まること。これは非常に大きい効果だと思う。毎日ごみのことを考えて、できるだけごみを減らそう、あるいはしっかりと分別して出そうと考えて努力するようになることがまず一番大きなメリットなのではないかと思っている。
ごみの減量化が図られ、実施自治体ではごみが15%、20%削減になるという話があるが、そのことが大きなメリットになり、それを通じて最終処分場あるいは清掃工場の焼却炉をひとつ減らせるだとか、最終処分場を造らないことで生態系の保全に繋がるようなメリットも出てくるという意見も出た。
- ・負担の公平性。ごみの排出量に応じて負担する形になるため、ごみを多く出す方は費用を多く出してもらい、ごみが少ない方は費用も少ないことで公平になるとの意見が出ている。
- ・そしてお金の使途。有料化により市にお金が入るが、それをどのように使うかということも考えなくてはいけない。CO2削減に使ったり、他の環境の方に活用したり、それを通じてまた有料化への理解に繋がってくるという話もあった。
- ・有料化は、負担が皆さんに出てくるからなかなか踏み切れない。市民もちろんそうだが、議員さんなどにもしっかりと考えてもらい、決断をしていただくということが必要であるという意見も出た。

(Cグループ)

- ・まずは、分別を気にするようになる、分別意識が高まるということ。
- ・SDGs、環境負担の軽減、二酸化炭素の排出抑制、そのようなものに繋がっていくということ。
- ・市民の財政負担も生じるが、有料化した費用で市独自の施策ができる。
- ・最終処分場の延命化、収集業務の改善に繋がる。
- ・ごみ減量の意識によりごみ出しマナーの向上に繋がる。
- ・費用負担の公平性が図れるということ。
- ・一番には、ごみが減るのではないかとということ
- ・市民のコスト意識が高まり、集積所の管理負担が軽減される。
- ・戸別収集とセットで導入するというような意見が出た。

○「相模原市が、有料化しない方がよい理由

(無料のままの方がよい理由、有料化したときのデメリット)

(Aグループ) ごみは、男性や女性、生活環境によって随分と意識の差があると思う。

- ・一番は経済的な負担がなくて良いということ。ごみは生活権の一部であり、誰もが出さざるを得ない。人間の生活のスタイルであり、その部分を公共的な負担、税金で賄うことは福祉的な意味で必要である。今、ごみの減量、分別等の意識は非常に多くの方が持っており、昔とは違う状況にある。有料化によりごみの減量が進むことは考えにくい。
- ・消費者だけではなくて、生産する企業の様々な政策、作り方、儲け方を含め、あるいは宣伝や流通の問題など、トータルで考えなければごみを減らすことに繋がらない。個人レベルでは分別、減量はかなり進んでいると捉えており、さらなる意識付けにより温暖化対策、SDGs まで行くというのは、やや短絡的というところがある。
- ・安心してごみを出すという言い方は問題があるかもしれないが、無料であることが安心安全な暮らしの一部というところがある。有料化を導入してしまうと、不法投棄、駅へごみを置いてしまう、お店に持って行ってしまふ。そのようなことも出てくるのではないか。
- ・地域には、外国籍の方、一人暮らし、若い人、様々な環境の方がいるので、そのような方々の暮らしを圧迫するようなことは問題であり、行政負担あるいは地球環境へということであれば、もっと議論や交流などいろいろと考えていかなければならないと思う。無料であれば安心できると思う。
- ・有料となればそれをチェックするシステムなどの負担が行政にかかってくるのではないかとということもある。もしこれを実施するなら行政側が一

生懸命対話していかないとなかなか追いつかない。議会との調整もあるし、非常に大きな難題ということも忘れてはならない。

- ・今、行政サービス、例えば市営駐車場や公民館利用なども有料になっているから、お金がなくても暮らしていける相模原市であって欲しいと思う。
- ・1つ付け足すと、明日は長崎の原爆の日です。核のゴミの問題も考えていかないといけないと思った。

(Bグループ)

- ・有料化することの最大のデメリットは不法投棄や不適正排出の増大で、有料化することによりごみ屋敷まで増えてしまうのではないかという意見があった。不法投棄対策で費用がさらにかかる可能性がデメリットとしてあるだろうという指摘である。
- ・経済的負担がやはりあって、特に貧困層に対する負担感の増大というのは大きな問題である。
- ・お金があるとしても、やはり日々、ごみのことまで毎日考えなくてはいけないのは面倒ではないか。
- ・無料のままの方が市民が文句を言わないので行政も楽だろう。
- ・政策的な話になるが、さきほどの政令市における生活系ごみの比較を見ても大阪市、広島市、川崎市、横浜市は無料なのに相模原市よりごみ量が少ない。まだやることがあるだろうと。有料化は最後の手段であり、あとは袋を値上げしていくしか手がなくなるのではないかという意見もあった。
- ・生産者責任がないがしろになるのではないか。有料化は取りやすい市民から取っていく。本来は容器包装リサイクルのように製造者がお金を出して回収するべきなのに、それとまたちょっと違う考え方になるのではないかという指摘もあった。
- ・有料化したお金の使い道も考えなくてはいけない。
- ・大きなところは不法投棄と経済的負担だと思う。

(Cグループ)

- ・費用発生による負担が大きくなるということがデメリットに関する一番大きな意見であった。
- ・袋の調達方法について、買うことが面倒であるとか、買う流れについて少し問題が起きる可能性があるという意見があった。
- ・不法投棄等々のルール違反。商業施設や空き地に不法投棄するようなマナー違反が増えるということも考えられるという話が出た。

- ・有料化を実施した後で、効果が長続きするかどうかという点が問題になるだろうと。有料にしたものの、有料であることに慣れて、結局はごみの抑制に繋がらないのではないかという意見も出ている。
- ・先ほどの話にもあったが、やはり捨てない人、ごみ屋敷になったりとか、不衛生なところも出てくるだろうというふうに考えている。
- ・無料であることが、プラスなのかマイナスなのかというところも議論に出た。有料であれば住みやすいという人もいれば、有料になったからここに住みたくないというように意見が分かれる可能性があるというところもあった。
- ・啓発が足りないというところで、有料化の前に啓発をさらに進めることが大事であるということ。
- ・有料化したことに対しての市民の不満が高まる恐れがあるという点をデメリットとして挙げさせていただいている。

4 その他
特になし

5 閉会

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員出欠席名簿

(五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	浅賀 きみ江	さがみはら消費者の会		出席
2	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		出席
3	内田 勝久	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		欠席
4	内山 雅之	相模原市農業協同組合		欠席
5	近江 良一	相模原商工会議所		出席
6	大久保 匡	相模原廃棄物対策協議会		欠席
7	大河内 由美子	麻布大学		出席
8	加賀谷 育子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		出席
9	栗岡 理子	公募		出席
10	須藤 みね子	さがみはらリサイクル連絡会		出席
11	武井 俊長	津久井地域不法投棄防止協議会		欠席
12	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会	会 長	出席
13	中島 勝平	相模原市自治会連合会		出席
14	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		欠席
15	藤倉 まなみ	桜美林大学	職務代理者	出席
16	堀川 伸晴	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
17	松平 和也	公募		出席
18	矢部 健	相模原地域連合		欠席
19	山田 とし子	相模女子大学		出席